

# 令和8年産水稻安定生産に向けて！ 難防除雑草「ヒレタゴボウ」の水稻収穫後からの防除対策！！

「ヒレタゴボウ」は、水田や湿地に発生する外来雑草で、近年増加しており、コンバイン収穫では、刈刃のいたみや詰まりによる支障が生じています。水稻収穫後には、「**早期除去**」、「**耕起**」、「**除草剤処理**」をほ場だけでなく、**畦畔や用水路なども含めて防除対策に取り組みましょう。**

## 1 「ヒレタゴボウ」とは

一年生で種子によって繁殖し、水稻収穫時には稲より20～40cm程度草丈が高くなり、黄色い花が咲きます。種子は土壌中で長期間生存可能であり、翌年に再発生することから、難防除雑草とされています。



## 2 水稻収穫後（休耕地も含めた）の防除対策

### ①早期除去（刈り取り・抜き取り）

休耕地ではほ場に残っている「ヒレタゴボウ」を早期に刈り取るか抜き取ります。

種子の飛散を防ぐため、開花・結実前に除去することが理想です。

### ②耕起（水稻収穫後の秋耕など）

耕起を行い、地表の種子を埋没させます。地表に残った種子は発芽しやすいため、深く埋めることで発芽・生育を抑制できます。

### ③休耕地での除草剤（非選択性除草剤）処理

非選択性除草剤（ラウンドアップなど）の茎葉処理剤を使用しましょう。

「ヒレタゴボウ」の葉が青い時期に処理すると効果が高く、地上部が枯れてしまうと効果が低下するため、早めの散布が重要です。

### ④ほ場外の管理

用水路や畦畔など、ほ場外から侵入する場合も多いため、周辺部の除草・管理も重要です。



## 3 令和8年産水稻生産ほ場での防除対策

現在、初期除草剤と中期除草剤を組み合わせた「ヒレタゴボウ」の防除対策を検討しています。

具体的な防除対策は、今後、水稻栽培講習会などで御説明する予定です。

令和8年産の水稻安定生産に向けた対策は水稻収穫後から始まっています

（お問い合わせ先）

香川県東讃農業改良普及センター 集落営農・農畜産部門 TEL0879-42-0190